

たより



平成29年1月18日 発行

伊勢市教育研究所（伊勢市桜木町 55-1）

## 熱心な研究と豊かな実践の成果を報告 ～平成28年度学びのグレードアップ総合推進事業(教育研究所版)研究会～

本年度は、学びのグレードアップ総合推進事業（教育研究所版）として、以下の学校（園）に、研究委託を受けて、実践研究に取り組んでいただきました。

- |                   |       |
|-------------------|-------|
| ◆ 幼稚園教育に係る実践研究    | 城田幼稚園 |
| ◆ 地域の歴史学習に係る実践研究  | 有緝小学校 |
| ◆ 社会科副読本活用に係る実践研究 | 宮山小学校 |
| ◆ 情報教育に係る実践研究     | 厚生小学校 |



城田幼稚園公開保育研究会にて

熱心に研究にお取り組みいただき、その成果を公開授業（保育）研究会で報告していただきました。研究内容や取り組みにつきましては、後日、教育研究所研究集録にまとめ、伊勢市内小中学校及び幼稚園に配布させていただきますが、「たより」におきましても、順に紹介させていただきます。

### 城田幼稚園公開保育研究会開催（平成28年11月17日）

#### 研究主題「一人一人の個性を生かしながら、協同して遊びを進めるための環境構成や援助の工夫」

城田幼稚園は、子どもたちが、生涯にわたって自己を発揮しつつ、仲間と協同する人になってほしいという願いのもと、研究主題を「一人一人の個性を生かしながら、協同して遊びを進めるための環境構成や援助の工夫」と設定しました。そして、5歳児9名の日々の遊びや生活を見つめ、「個性の発揮」「協同性の育ち」「教師の援助」の視点により、分析・検討を積んでこられました。事例研究では、幼児の遊ぶ姿を写真に撮って模造紙にはり、そこに子ども一人一人の様子、友達とのつながり、環境構成や援助について、職員間で話し合いながら幼児理解を深めてこられました。

「自分の好きなことが十分にできる状態を作ってやることによって幼児は自己を発揮する。そのことが安心感・満足感につながると共に、自ら他者とつながろうとする気持ちになり、周りの幼児のことを考えることができるようになる」、「一人一人のもち味を発揮していくためには、それを味わう教師の存在や、味わうことができる環境を整えていくことが必要である」ということを改めて確認し、教師の持つ概念や枠組みにとらわれず、ありのままの幼児の姿を受入れて、一緒に遊びながら、アイデアを出したり幼児同士をつなげる言葉掛けをしたりして、遊びの質を深めていきました。そして、幼児が協同して遊びを進めていけるように行った援助や、幼児の変容について報告されました。

公開保育研究会では、鈴鹿大学短期大学部 教授の田口鉄久先生から指導講評をいただきました。

#### 【田口先生の指導講評より・・・一部抜粋】

個性を生かすということは自己を発揮することと言い換えることができます。幼児は自己を発揮することによって充実感・満足感を得ます。

城田幼稚園の先生方は、それぞれの幼児が自己発揮できる場をつくることに心がけました。特に皆の中に位置付きにくいタイプの幼児には、丁寧な関わりを行いました。その幼児の好きなこと、得意なことを大切に、満足感を得られるようにしました。その結果、自己実現を果たした幼児はやがて他者へ思いをめぐらすことができるようになることが分かりました。それだけでなく、周りの幼児の意見も受け入れることができるようになるのです。

つまり、一人一人の個性を大切にする保育は同時に協同性を培うことにつながったということです。

もう一つの視点「協同性を培う」ことにかかる実践はどうだったのでしょうか。仲間とつながっていききっかけはどこにあるのか、同じく事例を分析・整理しました。

その結果当然ではありますが、遊びを通して自然な形で協同が行われるのです。同じ遊びをする2人がつながり、相手の行う遊びを手伝ったりする姿も出てきます。遊びが広がりつながり合っていきます。また、5歳児ですから話し合いも協同性を引き出します。時にその話し合いは折り合いがつかない場合もありましたが、教師の援助もあり、互いの思いをつなげて協同することになるのです。話し合いは事例6「素敵な運動会になった」にも見られました。

こうして、仲間とともに取り組んだ活動が成功につながったときに、さらに協同性が強化されることも事例から分かりました。その中で驚いたことに、人の役に立とうと個性を発揮する幼児が出てくることも分かりました。協同が盛んに行われる中で、個性の発揮がなされるのです。本日の人形遊び（※公開保育研究会での園児の活動）の中にもあったのではないのでしょうか。楽しい協同の中に、個性の輝きがあるのです。個性の発揮と協同を培うことは、相互に関連し合っているというのが、城田幼稚園の先生方の丁寧な実践分析を通して得た結論です。（中略）

援助の方法は、実に多様であります。子どもをつなぐ、考えを引き出す、理解を促す、認める、見守る、話し合う、技術の提案をする、環境構成をするなどです。幼児に合わせた多様な援助の工夫が見られました。（中略）幼児教育における援助の特徴は、その多様性にあります。私たちは偏った援助の方法をとっていることはないのでしょうか。指導、提案、禁止の多い教師主導型であったり、逆に承認、見守り、励ましといった幼児後追い型であったりしていないのでしょうか。どの援助の方法も大切ですが、本日晒されたように環境構成を含め、幼児の姿に合った多様な援助・柔軟な援助に心がけたいと感じました。

本年、伊勢市の研究指定を受けて、幼稚園がいつの時代も大切にしてきた幼児教育の本質「一人一人の個性を生かしながら協同して遊びを進める、そのための環境構成と援助」というテーマで研究を行い、長い歴史を持つ城田幼稚園の研究の集大成をされました。（後略）

城田幼稚園は、平成29年3月をもって、休園します。公開保育研究会において配られた研究報告の最後には、次のように、山中 公代 園長の言葉で締めくくられていました。

地域に根差した幼稚園を目指し、地域とも連携して今まで取り組んできたことを、今年度も最後まで取り組み、城田幼稚園最後の卒園児である幼児一人一人を、自分に自信をもてるようにして小学校に送り出せるように、職員間で力を合わせて取り組んでいきたい。